

高知大学 病院 ニュース

〔編集〕
 高知大学病院ニュース
 編集委員会
 委員長 森信 繁
 〔発行人〕
 高知大学医学部附属病院
 病院長 横山 彰仁

『ハイブリッド手術室について』

施設管理室

現在、第二病棟東側で「ハイブリッド手術室」の増築工事を行っております。この工事は本院の再開発整備事業の一環として実施するもので、平成28年5月に契約を締結し、6月に着工しました。平成28年11月末日現在の工事の進捗率は61%であり、関係部署の皆様にご協力頂きながら工事が進捗しています。

今後の予定としては、12月に内装工事、年明け1月に手術用機器の搬入・据え付けの後、最終的な内外装の仕上げを行い平成29年3月末に工事が完成、平成29年4月から機器調整・稼働となる予定です。

今回の増築建物は、2階に手術室が2室、1階部分にカンファレンスや更衣室、手術室の空調やMRI関連の機器設置のための機械室があり、延べ床面積は494㎡です。

第二病棟建設時からハイブリッド手術室のスペースを整備しており、増築部分も第二病棟同様に免震基礎となっており、地震災害時にも強い構造となっています。



ハイブリッド手術室は、手術室内に「術中MRI診断システム」や「手術用血管撮影システム」を設置し、低侵襲で高度な治療を実現するものです。

術中MRI診断システムは、開頭手術中にMRIで検査し、リアルタイムでのナビゲーションにより腫瘍切除することが可能となり脳腫瘍・脳血管障害などの高度な脳神経外科手術をより安全かつ的確に実施することが期待できます。

手術用血管撮影システムは、体内のカテーテルや病変をレントゲンで詳細に把握し、血管内治療と外科手術を同時に実施することが可能となるもので、TAVI(経カテー

テル大動脈弁置換術)の実施により心臓領域の高度な手術の増加が期待できます。

高度化・低侵襲化を備えたハイブリッド手術室は、心臓・脳領域のみならず幅広い領域での手術支援が期待でき、また既存の第二病棟の手術室10室に今回の2室が加わることで、手術件数の増加も見込まれます。

